

プラットフォームを介したオペレーション 秘匿から情報開示&連携へ！

コンテナ・ラウンド・ユース推進協議会
2025.9.17プレゼン資料



NPO ESCOT
<https://www.npo-escot.org>
ser.Kashiwa@gmail.com



課題と現状

情報非開示



情報不足



協労の無い
非効率物流



提案

情報テーブルの活性

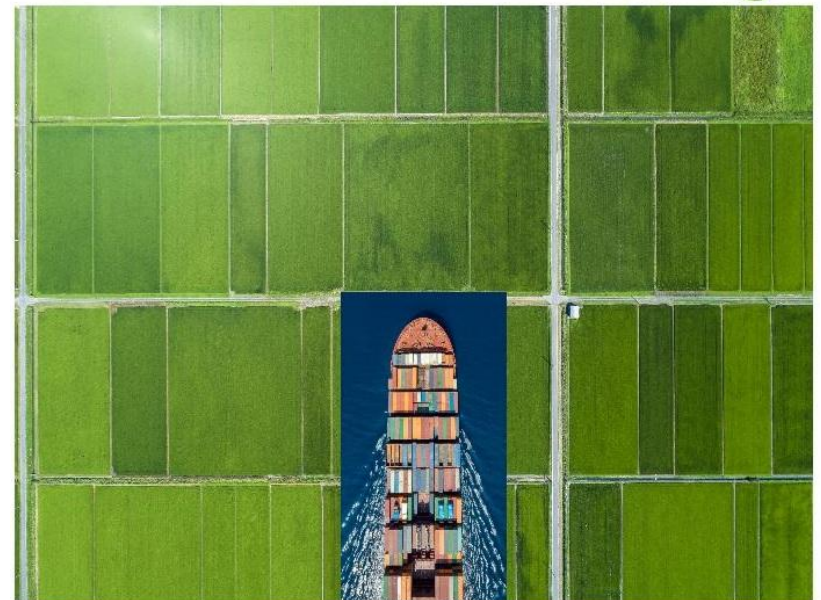


協労体制構築
リソース有効活用



コンテナ物流のスマート化

Global Container Matching



Energy conservation starts on land

マップでの状況とリソース開示

← 実入り対応可/保税エリア

機能-1
実入り対応可/保税エリア

拠点番号
8

機能-2
保税エリア

区分
1

住所
栃木県佐野市戸奈良町2500-3

社名
佐野インランド・ポート

コメント
SITC,ONE,OOCL (クリーン) 返却受け付
けます。コンテナ・ラウンド・ユース実

★

共有

フルスクリーン

拡大縮小

位置情報

地図

衛星

ストリートビュー

My Maps

佐野インランド・ポート

栃木県

群馬県

埼玉県

東京都

神奈川県

大竹

那須塩

日光

宇都宮

芳野

佐野インランド・ポート

鬼怒ヶ丘中央

株式

青伸産業運輸(株) 古河営業所

永進運輸株式会社

柏

夜間ミトランスポート(有)

川崎

横浜

キーボードショートカット

拡大縮小

位置情報

地図

衛星

ストリートビュー

My Maps

佐野インランド・ポート

栃木県

群馬県

埼玉県

東京都

神奈川県

大竹

那須塩

日光

宇都宮

芳野

佐野インランド・ポート

鬼怒ヶ丘中央

株式

青伸産業運輸(株) 古河営業所

永進運輸株式会社

柏

夜間ミトランスポート(有)

川崎

横浜

キーボードショートカット

活用-1

グーグル・マップでの利用法:

1. 地図上から近隣拠点を確認
2. 拠点マークをクリックし最新拠点状況を確認
3. 拠点担当者に連絡し改善を実施



活用-2

10 件表示		検索:							
拠 点 番 号	機 能 -1	機 能 -2	区 分	住 所	社 名	コメント	担 当	電 話	メ ー ル
1	実入り 対応可		1	茨城 県東 栗原 市小 山 1-9 -1	永道運 輸株式 会社	輸出が多く全体 に不足気味。 WHL&MAの運部 後、横浜向け輸 送委託希望	永井 忠博	090- 1880- 1067	eshin_unyu@nifty.com
2	実入り 対応 可/保 税エリ ア	保税エ リア	1	茨城 県東 栗原 市半 谷 3-1 9-8 -17	吉田運 送 株 式会社	MSK、OOCL、 COSCO運部出来 ます。コンテ ナ・ラウンド・ ユース実績多 数。お気軽にご 連絡ください。	吉田 孝典	080- 4579- 3141	t.yoshida@yoshiun.com
3	実入り 対応 可/保 税エリ ア	保税エ リア	1	群馬 県太 田市 緑町 8-1 -12	早川海 陸運送 (株) 太田富 貴所	ONE運部可能。 コンテナ・ラウ ンド・ユース実 績多数。お気軽 にご連絡くださ い。	富川	080- 3302- 1295	m- tomikawa@hayakawa- st.co.jp
4	実入り 対応可		1	埼玉 県所 沢市 下宿	タツミ トラン スポート	輸入が多くONE のコンテナ引き 渡し可能。お気 軽にご連絡くだ さい。	小笠 原、 狭山	090- 3237- 6538	ogasawara@tatsumi- transport.jp

情報テーブルでの利用法:

1. 検索窓に市町村名、船社名、デポ名等を入力
2. 表示された拠点情報を確認し直接連絡
3. 見積り等から改善実施

活用-3

災害及び緊急時の活用法

1. 実入りコンテナ一時保管
2. 実入りコンテナの揚げ降ろし
3. バンニング、デバンニング作業
4. 小口配送への詰め替え支援



活用-4

コンテナ・スマート・ユース企画・提言へのアクセス

- [EIR+QRコード提言](#)
- 輸入時に船社が発行するEIR書類上にQRコードを記載し空コンテナ移動を効率化する。
- [コンテナ無印化](#)
- マッチング率を大幅に向上させCO2削減に寄与するシステムです。
- [車両で復路集荷](#)
- 車両にマグネットシート塗布型QRコードを装着し空車走行時に求車マーケティングを行う。
- [宅配便でのコンテナ活用](#)
- EC貨物輸送のロールボックス固定、輸出時のドア口の根止め作業を簡素化「ロジ・ジャッキ」
- [教育プログラム提供](#)
- ①コンテナ・ラウンド・ユースの実務(前・後編)
- ②コンテナラウンドユースによる方法論⇒[i-クレジット](#)
- [ヒアリ対策](#)
- 現在の水際対策ではヒアリの侵入を防ぐことは困難です。エスコットではアース製薬の協力のもと……

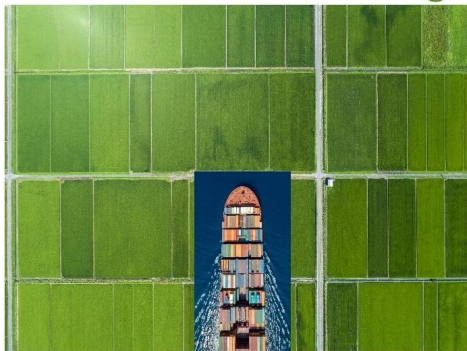


Key points



海運の気候変動対策は陸上輸送から

Global Container Matching



Energy conservation starts on land

国内貨物とのCRU＝EC貨物の海コン輸送



災害支援体制確立



食料輸出支援体制確立



現場の声を企画に反映



グーグルマップで内陸デポを見える化 搬入・返却対応などがネット確認可能に エスコット、海コンドライバの負担軽減

コンテナラウンドユース (CRU) などを推進するNPO法人「エスコット」が今春から本格的に、海貨業者や海コンドライバに内陸デポの「見える化」サービスを開始した。グーグルマップ上に海上コンテナ取扱拠点の位置を表示し、利用者はクリックするだけで、実入りコンテナの搬入や空コンテナの返却などの対応が可能かどうか、内陸デポの状況を把握することができる仕組み。海コン事業者やドライバの負担軽減につなげるほか、災害時に港まで通ふことができない場合、緊急の受け入れ先を探すことも可能になる。

エスコットは、1996年頃からインランドデポの利用拡大を推進してきた香港船社OOCLがデポ間でコンテナ融通などの調整を行うために立ち上げた「省エネルギー輸送対策会議」が前身。会合を毎年開く中で、コンテナの融通が環境負荷低減にもつながるということが判明し、会議体そのものを任意団体化した。

その後、環境関連のNPO法人として活動を開始し、現在はCRUの推進などに取り組んでいる。エスコット (ESCOT) という名称は「省エネルギー輸送対策会議」の英語名の頭文字をとったもので、運送業者などが会員となっている。

今春からは海貨業者や海コンドライバに向けて、内陸デポの「見える化」サービスを本格的にスタートした。グーグルマップ上に内陸デポの位置を番号で表示したもので、その番号をクリックすると、内陸デポの運営会社名や所在地、現在のデポの状況、担当者名、連絡先などが表示される。

例えば「実入り対応可」と表示され



グーグルマップで表示された内陸デポ一覧

ていけば、実入りコンテナの搬入が可能という意味で、「空コンテナ対応」と記載されていれば、空コンテナを受け入れているということを示す。また、「輸入が多くONEのコンテナを引き渡し可能」や「ONE、COOCLの40HCは返却可」などのような各運営会社によるコメントも掲載されており、海貨業者や海コンドライバにとっては、内陸デポに直接問い合わせることなく、一目で内陸デポの状況を把握できる。

現在はグーグルマップ上で、岩手や宮城、山形、福島、東京、埼玉、茨城、群馬、栃木の内陸デポ計18拠点を表示。これとは別に、各拠点の一覧を表形式でも掲載している。

主な活用方法としては、輸入で空になったコンテナの返却、輸出などで必要なコンテナの引き取り、別々の船社コンテナの交換などを想定している。

エスコットで代表理事を務める藤本治生氏は「どこに内陸デポなら空コンテナを返却できるのかなど一目でわかり、CRUの促進につながる。また、自然災害などの際にも役立つ。例えば、台風などの天候の影響で、港がクローズしてしまったときに、どうしても工場からコンテナを搬出しなければならない場合でも、実入りコンテナを降ろせる内陸デポを探すこともできる」と語る。

さらに、「海上コンテナ輸送の効率化は世界的な物流課題」とし、外国語表記でのサイト設計も実施。現在は海外での普及を意識し、英語版でも表示している。

なお、今回のサービスは専用サイト (URL: <https://npo-escot.org/empty/>) から閲覧可能。また、内陸デポの新規登録も受け付けている。

CRUの促進に新たな一手 エスコット、空コン返却を最適化 QRコードで回送先を選択可能に

コンテナラウンドユース (CRU) などを推進するNPO法人「エスコット」が空コンテナの返却を最適化するプロジェクトの本格始動に向けて準備を進めている。通常、トラックドライバがデバン後の空コンを返却する際、EIR(機器受け渡し証)に記載されている返却先まで回送する必要があるが、EIRに返却先の代わりにQRコードを記載。ドライバはスマホでQRコードを読み取り、専用ページで記載されている好きな場所に空コンを返却できるようにする仕組みとなっている。返却先の自由度を高めることで、空コン回送にかかる距離・時間の削減など物流の「2024年問題」にも貢献していく。さらに内陸デポへの返却も促し、CRUのさらなる促進にもつなげていきたい考えだ。

エスコットは、1996年頃からインランドデポの利用拡大を推進してきた香港船社OOCLがデポ間でコンテナ融通などの調整を行うために立ち上げた「省エネルギー輸送対策会議」が前身。会合を毎年開く中で、コンテナの融通が環境負荷低減にもつながるということが判明し、会議体そのものを任意団体化した。

その後、環境関連のNPO法人として活動を開始。エスコット (ESCOT) という名称は「省エネルギー輸送対策会議」の英語名の頭文字をとったもので、会員数は運送業者を中心に正会員48社・2個人、賛助会員8社に上る。

現在は、デバン後の空コンの返却先を最適化するプロジェクトに取り組んでいる。通常、トラックドライバはEIRに記載された返却先まで空コンを回送する必要があるが、返却先の代わりにQRコードをEIRに記載。ドライバはスマホでQRコードを読み取り、専用ページで記載されている好きな場所に空コンを返却できるようにするという仕組みだ。

船社にとっては、空コンが不足して



いる場所を専用ページに載せることで、空コン回送やハンドリングコストの低減を図ることが可能。空コン回送にかかる陸送も削減され、CO2排出量削減など環境負荷低減などにも寄与できる。ドライバにとっては、空コンの返却先の自由度が高まり、回送にかかる距離や時間を短縮できるほか、燃料費などのコスト削減、ヘッドやシャーシの利用効率向上も図ることができる。

例えば、ドライバが東北でデバン後の空コンを東京港まで回送せずに、近くの仙台港で返却すれば、東京港までの陸送距離の短縮に加え、仙台港の輸入貨物を引き取ることが可能。船社にとっては、仮に仙台港で空コンが不足している状況であれば、同港に空コンをスムーズに供給

できるようにする。

エスコットで代表理事を務める藤本治生氏は「ドライバの都合に合った空コンの返却方法を選択できるようになるだけでなく、船社にとってもメリットがあり、ウィンウィンの関係になれる」と語った。

返却先が内陸デポであれば、CRUの促進にもつながる。藤本氏は「CRUはマッチングが非常に重要になる。今回の仕組みにより、内陸デポへの返却を促すことができれば、マッチング率が上がるだろう」と話す。

返却先を表示する専用ページについては、構築に向けた検討を進めている。藤本氏は「船社の自社サイトか、船社以外の第三者が新たなプラットフォームを立ち上げることを検討している」と述べた。

船社に対してプロジェクトのアピールも行っている。今月下旬にはエスコットの会員らに対しての説明会も開催する予定で、プロジェクトの本格始動に向けた歩みを着々と進めている。エスコットURL: <https://www.npo-escot.org>